

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194100384		
法人名	医療法人社団 あさひ会		
事業所名	グループホーム まりもの家 (1階)		
所在地	釧路市若竹町12番16号		
自己評価作成日	令和5年10月5日	評価結果市町村受理日	令和5年11月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0194100384-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者様が健康で不安なく安全に過ごしていただける様、医療機関との連携が構築されている。
 ・心身の機能維持向上を図り、安らぎと暖かい雰囲気の中で生活して頂きたいとの強い思いで、体操始め、折り紙等使って、四季折々の花等の作品を居間に飾りつけホームの中にあっても季節の変化を楽しんで頂いている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和5年10月27日		

当事業所は釧路市街地の住宅・商業施設に囲まれ、近隣には協力医療機関の内科医院等があり立地の利便性に恵まれている。利用者にとっては日常的な商業施設への散歩にも好都合である。事業所は設備も新しく気持ち良く建物内は日当たりが良く気持ちよく過ごすことができる。家庭菜園もあり利用者にとっては楽しみの一つになっている。ベテラン職員が多く利用者とのコミュニケーションが円滑である。現在コロナ禍の状況のために地域カフェは中止しているが実績があり地域とのコミュニケーションがとれている。管理者と職員は共に信頼関係を築き、明るく穏やかに利用者に向き合い、表情や動きから思いをくみ取りながら支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ過で活動は自粛しているが、平生は地域密着型サービスとして独自の理念を作り上げ、地域住民にアピールをしている。更に理念を意識し、実践を行うと共に定期的に見直しや検討を実施している。	定期的に理念の見直しを検討している。理念は玄関に掲示し、会議等で唱和しながら管理者と職員で共有し、日々のケアにつなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、平生は町内会行事に参加したり、事業所の行事に住民の参加を募っている。また地域カフェを開催して、地域等の交流を図っている。カフェスペースを地域で有効活用していただいている。	町内会に加入している。コロナ禍以前は地域カフェを開催し、カフェスペースの有効活用と地域交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平生は運営推進会議や地域との交流を図り、認知症や認知症の方への理解を得られるように働きかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回（コロナ過書面にて）開催、取り組みや利用状況を報告している。ご家族や包括支援センターからの具体的な助言や意見をいただきサービス向上に努めている。	2ヶ月に1回書面会議を開催している。民生委員や知見者、老人会、婦人部、地域包括支援センター職員、家族等が参加し、具体的な助言や意見をサービス向上に活かしている。	今後、地域カフェの再開により、ボランティアや協力者、行政などの支援のもとサービス向上に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の活動報告を行い、必要な助言を受けたり、困った事があればその都度、市の担当者に連絡を取って相談している。	市担当者や地域包括支援センター職員とは介護保険の手続等や生活保護手続などの申請や事業継続計画（BCP）の相談、助言を得るなど協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに継続的に取り組んでいる。抑圧しないケアを心がけスタッフとの話し合いを続けながら取り組んでいる。	身体拘束に関する会議を3ヶ月に1回開催している。会議では拘束となる行為とそれに伴う弊害について、理解を深め、利用者の安全に配慮したケアの提供に務めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や勉強会で学ぶ機会を設けている。互いに声掛けをする事によって防止に努め、更なる学びを続けている。		

グループホーム まりもの家（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護について検討を必要とする方はいないが、必要と思われる場合にすぐに利用者、家族へ情報提供ができるように学びを深めると共に普段から役所等と連携出来る様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書と重要事項について説明し、必ず不安や心配事、不明な点を確認している。更に、事業所としての理念を強調し理解、納得の上での契約をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりやご家族との接点の中で、日常的にケア状況や本人の状況について報告し、ご家族や本人の意思を取り入れ、入居者様のケアの充実を図っている。	家族からの意見や要望は利用料支払い時期に把握している。疎遠になっている方への電話や遠隔の家族には生活の様子を写真に手紙を添えて送付して要望等を把握している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や勉強会などの他に連絡ノートを作成し情報の共有に努めている。その中で都度意見や提案を聞き反映できるよう意見交換に努めている。	管理者は職員からの意見や提案が出されるように配慮している。畑で使用の肥料やレクリエーションで使用する材料費の予算化事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を実施し職員の働きやすい環境作りに配慮し、働きがいのある条件整備に努めている。又、日常的に気軽に話が出来る様雰囲気作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ過、外部研修の機会はないが、平生は計画的に参加できるよう、大まかな年間計画を作成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ過、同業者との交流機会は持っていないが、平生は市のグループホーム連絡協議会や研修会に参加し他施設との交流を図るよう努めている。		

グループホーム まりもの家（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や介護支援専門員、相談員等の支援関係者に出来る限り状況を確認して、必ずご本人と複数回お会いしている。生活史や生活の状況、直近の過ごし方等も把握し、ご本人、ご家族の考えや気持ちの確認をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と話し合う機会を設け、出きるだけ不安や心配事に対して丁寧に説明を行っている。要望に添える様に支援を検討し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の話やご本人の状況を確認し、必要な支援の把握を行い、改めてご本人やご家族に必要なと思われるケアを提示、より具体的となる様対応している。又、対応困難と思われる場合はできるだけ思いに添えるよう提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者職員は日々生活の中でそれぞれができる事を互いに助け合いながら、暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を結成し、日々の関わりの中で具体的な相談を行うことでご家族と共にご本人を支えていくよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にも協力をいただき、ご本人の馴染みの場所や人を把握して、出来るだけ以前の環境、人間関係等を繋ぐことで変わりなく過ごしていただける様配慮している。	利用者の過去の情報をもとに、以前習っていた日本舞踊の先生との再会を通じて、本人が器用に舞うなど、関係継続が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が声を掛け合い、支え合える様な関係が出来ている。孤立しないよう、職員が間に入り入居者同士の、より良い関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現時点では電話連絡になっているが、平生は入院や退所の場合でも面会に赴き、ご本人やご家族の相談や支援に努めている。		

グループホーム まりもの家（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者様本位のサービスを心がけ、職員間で話し合いや情報共有に努めている。又、意向をケアプランに反映するよう心がけている。	利用者からの希望や要望は日常ケアの中で把握している。意思疎通が困難な利用者からは家族から情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始時、ご本人やご家族、ケアマネ、支援関係者等より情報を頂き、これまでの生活の様子や馴染みの環境、人間関係等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートやカンファレンス、申し送りノート等で情報を共有、現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランや介護記録・連絡ノートを中心に職員間での情報共有に努めている。又、ご本人、ご家族の意見やアイデアを参考に具体的に充実したケアとなる様プランを作成、定期的な状況把握を行うことで振り返りを行っている。	介護計画は介護記録や連絡ノートをもとに職員間で共有し、本人、家族からの意見や要望を取り入れ作成している。定期的な状況把握と変化時にはその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録はケアプランに即した記録となる様努め日々の状況を記録している。ケアの実践・結果、気づき等は申し送りノートに記入、職員間で共有しながらケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のニーズに出来るだけ柔軟に対応し、他事業所等の取り組みも参考にしながらケアを検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	平生は、ホームや地域行事には、ボランティアをお願いしたり、地域住民のご協力を得ながら支援の行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の体調の把握に努め、継続的にかかりつけ医と連携を図っている。	基本的にかかりつけ医受診は家族の同行で行っている。本人の病状は、口頭で家族を通してかかりつけ医へ伝えている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人看護師1名を配置して、連携をとりながら適切に受診や看護を受けられる様支援している。		

グループホーム まりもの家（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、ご家族や医療機関と連携をとっている。状況の改善に合わせて安心してホームでの生活に戻れるよう努めている。平生は入院中面会に赴き、ご本人の様子との把握と共に馴染みの顔を見せられるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りについての指針が作成されている。入居時、重度化した時のご本人、ご家族の希望をお聞きし同意書を交わしている。看取り時期が来た時には、ご家族や医療機関と話し合いを持ち、対応を行っている。	重度化や終末期を迎えたときは家族の意向で病院または事業所での看取りを支援している。夜間での看取り体制は訪問看護師・ケアマネジャー・管理者や家族との協力で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は勉強会で緊急時対応、事故発生時対応について確認している。又、救急救命講習を殆どの職員が受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の職員連絡網を整備し、近隣住民に協力をお願いしている。夜勤帯を想定した避難訓練を継続的に実施し、災害時の対応について協議を重ねることで緊急時、対応が出来る様努めている。又、災害時の対策として備蓄も行っている。	コロナ禍以前は町内会長や近隣居住者に災害時に駆けつけてもらえるように協力を依頼している。災害時の通常備蓄品の他に蓄電池の重要性から用意をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドやプライバシーを損ねない様に配慮した言葉づかいや対応を行っている。又、利用者間でもプライバシーを損ねない様、職員が間に入って配慮している。	プライドやプライバシーを損ねない言葉かけに注意している。トイレ誘導では「散歩でもいかないですか」などの配慮の言葉を使うなどしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションの時間を多く取り、思いや希望を表現できる環境作りをしている。表情や会話からその人の思いを汲み取り、希望に添えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや体調に合わせて過ごせる様支援している。又、何かやりたい事がある場合は、本人の希望に添えるよう努力し、ご本人のペースで行えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常の中でご本人の好みを把握し、ご本人の好みに合った服を選んだり、身だしなみを整えることでその人らしいおしゃれが出来る様に支援している。又、カットやパーマの希望があれば訪問理美容の手配をしている。		

グループホーム まりもの家（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作る際、利用者様の希望や季節感を取り入れ、家庭菜園や旬の野菜を使って、会話を楽しみながら一緒に食事を楽しんでいる。	当事業所では家庭菜園をしており、採れた野菜を提供する際には、みんなで収穫したことを喜び合っている。敬老会では生チラシを喫食しながら、「今日は祝敬老の日」と表示した紙をテーブルの上に置き、皆で祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を毎日把握している。食事形態を個々の状態に合わせることで食べやすい工夫し、必要な水分、栄養が摂れる様支援している。体重を計測し体調の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生管理を実施しており、技術的助言、指導を歯科医師、歯科衛生士から受けている。毎食後の歯磨き、うがいの声掛けを行い、口腔内の確認を行っている。義歯は每晚洗浄剤で消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用、排泄パターンを把握することで排泄誘導を行い、できる限り自立した排泄が出来る様支援している。	食事はヨーグルトなど便秘をしないような配慮をしている。頑固な便秘などではベビーオイルなどで刺激をし薬剤をできるだけ使用せずに自然排便に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎回排泄表に記録し、排便状況の把握を行っている。食材の工夫や多めに水分を取って頂く様促すと共に、体操により体を動かしてもらい、便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や希望に合わせて入浴して頂いている。週2回の入浴支援を基本とし、時間帯や曜日を必要に応じて調整している。	体温が37度をめどに体調に合わせて入浴している。入浴拒否の利用者には気分をそこねないように足湯からはじめて気分が乗った時に湯舟へ誘導するなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や状況に応じて休息や睡眠をとって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルして職員がいつでも確認出来るようにしている。目的、副作用、用法、用量について理解をすすめ、副作用や症状の変化等、情報共有に努め、医療職からのアドバイスも得、情報を共有している。		

グループホーム まりもの家（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	プランターの植物管理の依頼、天気の良い日は菜園で土に触れる事で元気になって頂き、カラオケセットで音楽に合わせ、運動や唄を歌って楽しく過ごして頂いている。又、季節ごと折り紙を使って季節の花等を作成して飾りつけ、変わり行く季節を感じて頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に応じ気分転換や季節を感じられる様な外出支援を行っている。温かい日には近所の散歩を行ったり平生は花見や紅葉狩りに出かけている。ご家族にもご協力頂き馴染みの場所への外出もしている。	コロナ禍では感染防止に重点を置いてきたが現在は天候に応じ、近所への散歩など、気分転換や季節感を感じられる外出支援を行っている。職員の提案による旅のビデオ放映も計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物などの希望がある時は預かり金にいつでも自由に使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話が出来るよう支援している。又、ご家族からの連絡の際もすぐ電話を取り次ぐようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度に気を配りながら日中は常にカーテンを開けて季節や天候を感じられるようにしている。居間にソファを置き寛いで頂けるに様している。	利用者にとって不快な状況や臭いなどには特に配慮し、心地よく過ごせるよう支援している。温度や湿度に注意しながら、特に日中はカーテンを開放し、季節や天候状態を感じられるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間は広々としてテーブル席、ソファ席とも落ち着いて過ごせる空間を提供している。気の合ったもの同士が歓談されたりテレビを見て過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や思い出の深い物、遺影やアルバム等を持ってきて頂き、その人らしく過ごせる空間となる様配慮している。	入居に際して、家族には馴染みのものの具体例を示すなどして準備している。使い慣れたもの、思い出ある品等その人らしく過ごせる居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームは自立した生活が送れるように、居室及び共用部分全てに手摺が設置されている。自室では個人個人の出来る事を優先した環境が作られるよう配慮している。		